

2019年5月22日

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者：坂本 徹

1. 概要

歩行名称	山陰 2
歩行区間詳細	スタート地点: JR 田儀駅 ゴール地点: JR 須佐駅
実施期間	2019年4月9日(火)～4月12日(金)
全歩行距離	165Km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	篠崎 次郎	80	4日	
2	サブリーダー	坂本 徹	62	4日	
3	記録	斎藤 篤二	80	4日	
4	記録	松田 治男	68	4日	
5	企画・会計	松本 明子	70	4日	
6	企画・庶務	松本 美和	54	4日	

3. 歩行の概要

	月日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者
1	4/9	JR 田儀駅～JR 馬路駅	33Km	篠崎、坂本、斎藤、松田、松本明子、松本美和
2	4/10	JR 馬路駅～国府海水浴場	46Km	同上
3	4/11	国府海水浴場～益田川河口の月見橋	55Km	同上
4	4/12	益田川河口の月見橋～JR 須佐駅	31Km	同上
		合計	165 Km	

4. 参加費

参加者延べ日数 4日*6人=24人日

参加費合計 2,400円

≪参考≫一人当たりの費用

① レンタカー 10,620円(内訳:車借用と保険 9,720円、・ガソリン代 900円)

② 宿泊料 1泊目:のがわや旅館 12,030円
2泊目:国民宿舎千畳苑 9,810円
3泊目:多田温泉白瀧館 8,292円
飲物代等 2,480円

③ その他 石見銀山世界遺産センター・津和野観光昼食 1,108円、歩く会会費 400円

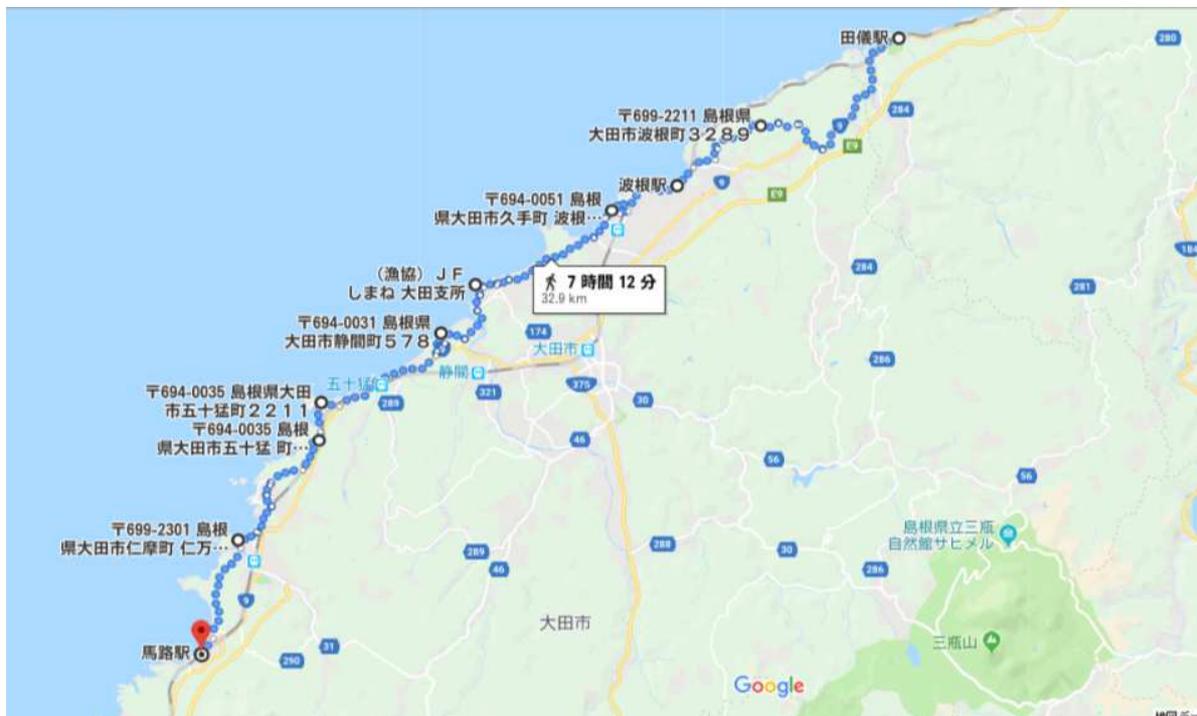
①～③ 合計 44,740円(現地往復の交通費を除く※)

※東京からの交通費は往路(羽田空港→出雲空路)11,190円、復路(萩石見空港→羽田空港)18,090円

5. 歩き方

- 3班(各班2名)リレー方式で歩いた。
- 歩行の効率化のためレンタカーを併用した。
- 地図は次のとおり

【1日目】スタート:JR 田儀駅 → ゴール:JR 馬路駅



【2日目】スタート:JR 馬路駅 → ゴール:国府海水浴場



6. 歩行の詳細

【1日目】4月9日（火）晴れ

メンバーは、東京からは空路で出雲空港9時10分着、金沢からは前日JRで出雲駅まで移動して駅前ビジネスホテル泊、甲府からは夜行バスで早朝出雲駅着。

坂本が8時に出雲駅前のレンタカー店で日産セレナを借り受けて、松田さんと合流、出雲空港に向かう。予定どおり出雲空港でメンバー全員が揃い、9時40分出雲空港を出発。スタート地点のJR田儀駅に10時20分に到着。



スタート地点のJR田儀駅舎にて歩行継続の証拠写真



1班のスタート地点で「頑張るぞ~!!」

今回の海岸線歩行区間は、中国山地が海岸に迫っているため山林原野が多く、平坦地が少なくなっており、岩場と砂場が交互に存在していた。海岸線は、漁業はもちろん、風光明媚な自然景観、海水浴、釣り、各種マリンスポーツ等観光に供されていた。

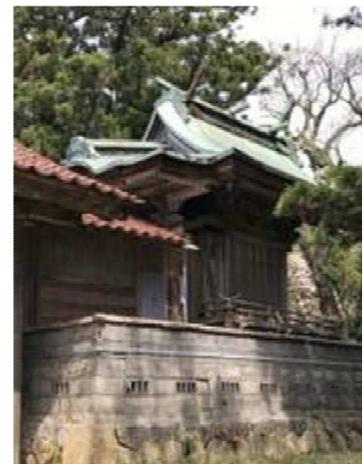
石見文化と出雲文化が混在する地域であり、中世から近世にかけて石見銀山の盛衰に大きな影響を受けた地域であった。地域内には、「石見銀山遺跡」や「温泉津温泉街の伝統的建造物」など、古くからの歴史を今に伝える史跡や文化財が点在しており、一日の歩行終了後に訪れた。

1班（松田、松本美和） スタート：JR田儀駅→ゴール：JR久手駅 11.8Km

10:25 JR田儀駅をスタート。田儀（多岐）港入口で国道9号と別れ、海岸線を歩く。島津屋港を見下ろす道路から山道に入ったが、山道を1本早めに入ったようで、先ほど経由した田儀町方面に向かっている。鶴ヶ城趾を經由して国道に戻り、朝倉彦命神社（立派なクスノキがある）まで歩行する。



神社境内に咲いていたお花



朝倉彦命神社

12:10 朝倉彦命神社にて昼食、旧山陰道と思われる道路に入る。大正天皇が皇太子時代（明治40年）の行啓時にお休みになった峠などを經由して、羽根（波根）方面を目指したが、行き止まりの道路に入り込むトラブルに遭遇した。

14:00 羽根駅 着

14:30 ゴールの久手駅に到着し、迎えの車を待つ。

2 班（篠崎、坂本） スタート：JR久手駅→ゴール：韓神新羅神社 12.2Km

10:40 久手駅に到着。駅前の案内看板を見ると近くに国の天然記念物「羽根西の珪化木」（樹木が石化した岩石）があるので、2 班と 3 班が車で移動して見学する。

11:10 珪化木から歩行開始、スタート地点の久手駅前を通過して、久手港や久手海水浴場沿いを歩行。車の通行が少ない県道 287 号を進む。



スタート地点の久手駅にて



久手海水浴場



桜の下で昼食休憩

12:00 県道沿いに桜が満開となった広場があったので、昼食休憩をとる。三瓶川に架かる橋を渡って国道 9 号に出る。歩道のない国道で交通量が多い。50m と 100m の歩道のないトンネルがあり、慎重に進む。

13:50 ゴール 2 km 手前で、車の往来を気にせずに休憩できる場所で休憩する。



歩道のない国道 9 号線



下関 244 km の交通標識あり



ゴール地点に到着

14:20 韓神新羅神社に到着。五十猛漁港に置いてあるレンタカーを回収して、1 班と 3 班をお迎えする。

3 班（斎藤、松本明子） スタート：韓神新羅神社→ゴール：JR馬路駅 8.9Km

波根西に天然記念物「珪化木」（炭化した地中の木が貝等の地中の成分と反応してできる）があると知り、2 班と一緒に探検気分ですてやかな海の岩場に降りた。炭化木は黒く硬いが、初めて見る珪化木は木の形状をしぶとく残っていて色は白かった。



岩に食い入る珪化木（波根町）



餌をもとめて白鳥が来る（五十猛漁港）



朝鮮と交流の証し韓神新羅神社

11:30 五十猛 (いそたけ) 漁港の駐車場に駐車、昼食をとる。漁港の岸壁に2羽の白鳥が、食事の気配に餌をねだって接近してくる。

12:00 出発、ここの氏神の韓神新羅神社に参拝。14世紀とかに新羅と交流があり、人の往来により付近に韓国の地名・人名が残っているとのこと。

12:30 国道9号の赤井交差点を右の県道に行く。

13:10~13:30 仁万 (にま) の学校前で休憩

14:20 馬路駅(ゴール)到着。車を待つ間、無人駅のホーム待合室で風を除け休んだ。

石見銀山を観光するため、各班とも早めに行動して歩行を終えたので、予定どおり石見銀山に赴き、世界遺産センターを見学して、石見銀山遺構の大森地区町並みをゆっくり散策した。我らがひとり占めの町並み



散策だった。趣のある佇まい、縁側には野の花が生けら



れていた。

石見銀山町並みは我らがひとり人占め

18:00 温泉津 (ゆのつ) 温泉 「のがわや旅館」に到着

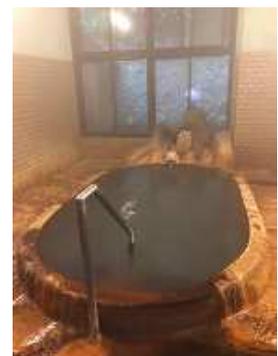
お宿は、石見銀山とも縁の深い温泉津温泉の「のがわや旅館」。さりげないけれど行き届いた一皿一皿、まるで山陰の春がそこに咲いているかのような夕食に、心も胃袋もすっかり魅了された。「のがわや旅館」は、小さいが日本の格式と「おもてなし」に心を遣った旅館、食事も一流だった。



一皿ずつ運ばれてきた料理



朝食



外湯の薬師湯

【2日目】4月10日(水) 小雨のち曇り

小雨のち曇りで昼前に雨が上がる予報であったため、出発を遅らせることとした。朝湯を各人が思い思いに外湯の薬師湯と元湯にとった。

松本美和さん曰く、「遅めの出発で朝の雨をやり過ごすという坂本さんプランのおかげで、朝食前の元湯&朝食後には薬湯と、ゆっくり外湯巡り。しっとり雨に濡れた温泉津、素朴で泉質は申し分なく、銀山のお膝元の名宿はおもてなしも上質でした」とのこと。



のがわや旅館の前で



温泉津温泉の町並み

9:20 のがわや旅館出発、コンビニに立ち寄り、9:50 スタート地点の馬路駅に到着。



1 班 (坂本、松本美和) スタート：JR馬路駅→ゴール：JR黒松駅 16.8Km

10:10 馬路駅 10時5分発の1両の普通列車を見てから出発。雨も止み、海岸線に沿った道を進み、石見銀山街道(鞆ヶ浦道)の一部を歩行(案内標識あり)。狭い海寄りの山道を進む。

11:05 温泉郷八幡宮にて休憩。湯里川を渡り、蛇行する山道を歩行して日祖漁港に出る。風光明媚な湾である。さらに進むと道幅の広い中国自然歩道に出る。



鞆ヶ浦道の標識



温泉郷八幡宮



日祖漁港

12:35 温泉津体育館前の桜並木の下で昼食休憩、野良猫3匹が近くに寄ってくる。

13:30 温泉津温泉の観光案内所ゆうゆう館に立ち寄り、見学する。

14:45 温泉津漁港から山道を進み、石見福光駅に到着。ここでパトカーから降りてきた若い警察官の職務質問を受けた。不審者扱いされて「海岸線を歩く素晴らしさ」を理解してもらえなかった。

15:55 黒松漁港を通り、大島神社を見て黒松駅に到着。



大島神社



松本美和さん曰く、「スタートから、山肌に貼りつくような細い道、もしかしたら私道かもと思うような民家脇の道など、かなりマニアックなルートを、いやあ〜よく歩きました。若い巡査の職務質問にも遭遇」とのこと。

2 班（松田、松本明子）スタート：JR黒松駅→ゴール：エディオン江津店 14.8Km

10:30 黒松駅をスタートして、珪砂の採掘場が点在する海岸沿いの旧山陰道を順調に歩行する。

12:00 国道に戻り、浅利駅近くのローソンで昼食、横浜在住のライダーと話をする。そのあと国道の浅利隧道歩行を避けて、峠道を歩行する。

14:00 渡津小学校近くの踏切で一休みして、江川橋を渡り江津市内を歩行。日本製紙工場の煙突が河口近くスタート地点の黒松駅近くにそびえている。

15:00 単調な国道沿いの歩道を歩き、エディオン江津店に到着。



浅利隧道上の峠（旧道）からの日本海

3 班（篠崎、斎藤）スタート：エディオン江津店→ゴール：国府海水浴場 14.8Km

10:00 エディオン江津店の駐車場に車を駐車する。

10:10 出発、国道9号を1km行き東側の県道を進む。江津市の準工業地区的街道を行く。

11:45 アユ種苗センター前

12:15~12:45 人麿呂公園の登路の途中の草地で昼食。

13:10 波子（はし）町しまね海洋館に立ち寄る。

13:45 久代川の橋の西詰で国道9号に分れ、軽自動1台の道幅の道路になる。次第に舗装がなくなり、戻る。たまたまこの地の人に出会い、尋ねる。石見海浜公園の導入路は消失寸前で、草地の道が正解と判り再び道に戻り、10分くらいで公園内に入る。公園は東西に5kmある大きい敷地ではあるが、訪れる人は今はほぼいない。公園事務所で地図を頂き、14:30 予定の通り唐鐘東港に出る。今日の宿の国民宿舎がある下府（しもこう）町は、ものの本によれば中世石見の国の都らしい、人家も密にあり通行人もほどほどに多い。

16:00 ゴールの東の国民宿舎千畳苑に到着。



草地の道（国分町）に戸惑う

石見の中心は下府町

16:40 1班と2班が国民宿舎千畳苑到着、3班はゴール隣が宿舎だったため、既に千畳苑に入っていた。

お宿は、展望風呂（しかも温泉♪）から海が一望できる国民宿舎千畳苑。お部屋は広くてきれい、夕食も美味しいし、バイキングの朝食は圧巻でした！美味しいものを食べさせたいという料理長の心意気を感じるお宿だった。



夕食



朝食（バイキング）



海岸からの千畳苑

【3日目】4月11日（木）晴れ

8:05 千畳苑を出発して、朝一で石見畳ヶ浦（指定天然記念物）に行く。海の洞門、千畳敷の岩盤の景勝は、岩脈やノジュール（岩の円形の突起）をつぶさに観察できて、地殻の動きのあり様に興奮する。



千畳苑の前にて



畳ヶ浦にて



ノジュール（円形の岩の突起）は「ハークそのもの」

1班（坂本、松本明子） スタート：国府海水浴場→ゴール：JR周布駅 18.5Km

9:00 畳ヶ浦を見学して駐車場から歩行開始。国民宿舎千畳苑の前を通り、生湯まで3.2kmの遊歩道コースに入る。

9:55 断崖の海岸を見ながら快適に進む。ベンチがある展望所にて休憩する。

10:45 生湯港に到着、漁場である。



遊歩道からの眺め



生湯港



浜田城跡公園

12:15 浜田城跡公園にて昼食休憩、園内には桜がきれいに咲いている。

13:45 優雅な姿をした斜張橋の浜田マリン大橋を渡り、水産加工団地のしまねお魚センターに立ち寄る。

14:45 西浜田駅の駅舎にて休憩する。ここからはJR山陰本線と並行する道路を進む。

16:05 周布駅着。海岸線西側から周布駅に入る道路がないため、回り道して東側道路から周布駅に入る。



JR周布駅舎



斜張橋の浜田マリン大橋



2班（松田、篠崎）スタート：JR周布駅→ゴール：恵美須神社 16.3Km

9:30 浜田市街を通り抜けた周布駅から歩行開始、ゆうひライン（9号線）沿いを快調に歩行、金属再処理会社（カネテツ）のある岬に到着。

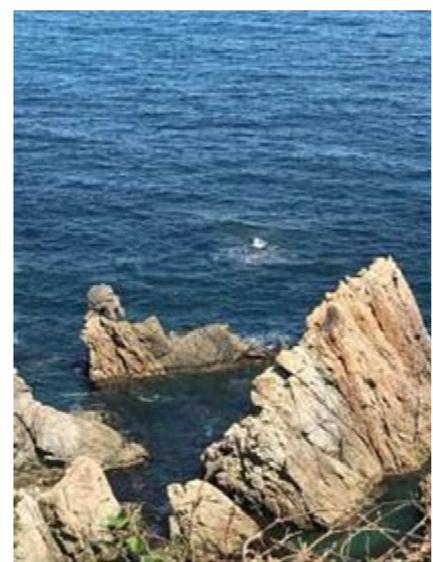
10:30 岬を下り、海沿いの国道を歩行（折居海水浴場を通過）。

11:00 道の駅ゆうひパーク三隅に到着、海岸線のルートが心配だったので、白砂までゆうひラインをそのまま歩行し、白砂から県道に入り、三保三隅駅に到着昼食。日本の原風景のような里山が展開していた。

13:00 三隅港から「はりも山公園」、「人形岩」眺望所のある岬を経由して、古湊の恵比寿神社に到着。小さな古い神社が鎮座していた。



三隅川沿いに行く篠崎リーダー



人形（ひとがた）岩

3班（斎藤、松本美和）スタート：恵美須神社→ゴール：益田川河口の月見橋 20.0Km

10:00 古湊漁港の駐車場、えびす神社前出発。火力発電所の大煙突を右手に海岸に沿って、のどかな道を進む。



中国電力火力発電所とソーラ



む。

人里離れた海辺（浜）と島根近海は隠れ世界遺産か

10:40 中山の交差点。ここで歩道のない国道9号を避けるため、四辺形の3辺に行く遠回りのルートを選び、源田山の海側を巻く県道に行くことにする。地元でチェリイ道路と呼ぶ道路は、緩やかな上りや下り勾配

の道(2kmほど)に桜並木の花が散りかけ、早春を喜ぶ小鳥たちが澄んだ声で鳴き、素早く飛び交う姿になんとも言えない理想郷を感じて、このルートにしてよかったと思った。

11:20 青浦。こちら辺りから国道9号まで源田山の西の山麓から南の山麓の道路を通る。

12:15 国道9号に出る。

12:50～ 13.20 鎌手駅のホームのベンチは昼食に格好な場所、鉄チャンになった気分。

13:30 トイレ休憩の福祉事務所(西平原町)の女性にエールをおくられて感謝し出発する。

14:30～15:00 「鵜の花古墳」に寄り道しようと道を分け、地先のおばあちゃんが遠方からの友 美和さんに感激し、肩を寄せ手を取り古墳入口まで案内してくれる。明治のころまでは50基の大きな古墳群があったが、山陰線、国道等の建設で撤去されて現在一部を残し指定文化財となった。

15:15 遠田八幡宮(ゴール)に到着。

16:00 移動。待ち時間に翌日分を先取りする。

16:50 月見橋(益田川の河口)に到着、ゴール。

松本美和さん曰く、「この日は国道を避けて海側のルートに。

大回りでアップダウンもあったけれど、こちらにして大正解。

青空も見えて、名残りの桜が空と海、新緑に映える桜ロードをほぼ貸切りで楽しみました。途中でトイレをお借りした福祉事務所の女性の笑顔が素敵でした。古墳の近くで出会ったおばあちゃまには、大歓迎していただいて、松林に埋もれた古墳を見ることができ、この辺りの人々の温かさが心にしみました。順調にゴールし、神楽舞台のある神社で篤さんとしばらく待っていたら、体が冷えてきたのでもう少し先まで行くことに」とのこと。

17:20 多田温泉白瀧館に到着、入口に「歓迎 海岸線を歩く会 御一行様」の案内板があった。駐車場が混んでいたが、日帰入浴施設でもあり、地元の方が入浴に大勢来られていたためであった。

お宿は、気さくな支配人さんのいる「多田温泉白龍館」。古いけれど自慢の温泉と料理はなかなか良くて、こういう地に愛され続けているお宿は、新しい時代にも残ってほしいと願った。



山陰線のビューポイント



鵜の花古墳群の一つ横穴式円形古墳



「歓迎 海岸線を歩く会御一行様」
の案内板で歓迎される



夕食



朝食

【4日目】4月12日（金）晴れ時々曇り

7:50 白瀧館を出発して、1班スタート地点の月見橋に8:10到着する。津和野観光のため、早めの歩行を行うとともに、効率よくお迎えができて津和野に一番近いルートとなるように、レンタカーは2班スタート地点のふれあい広場に駐車することとした。



白瀧館の前にて

1班（坂本、松本美和） スタート：益田川河口の月見橋→ゴール：ふれあい広場 10.5Km

8:10 月見橋を出発

9:15 国道191号線沿いにある持石遊泳場にて休憩、水平線がきれいで一直線の海岸が延々と続いている。

10:00 持石海岸の東屋（あずまや）にて休憩。海岸沿いには、石のモニュメントやビーチハウスや東屋があり、良く整備されている。遊歩道には、昔話や童話がモチーフになった石のモザイクアートが続く。



お土産として

月見橋を掌に乗せる



石のモザイクアート



10:35 ふれあい広場到着

11:00 JR須佐駅到着、3班をお迎えして、2班のゴール地点の道の駅ゆとりパークたまがわに向かう。

12:05 2班が到着して津和野へ出発。

松本美和さん曰く、「初日と同じ職務質問コンビ?!再結成。今度は、海岸線の際をトレース。長い棒とずっしりした収穫物をぶら下げたおじさんに「今日は海岸にワカメが打ち寄せられる」と教えてもらい、さらにもう一人ワカメ採りの人に出会った。そうすると、好奇心旺盛なコンビ、岩場の先に見えるワカメらしき影に引き寄せられる。坂本さんが「じゃ、5分だけ」というので、ふたりで少しだけお土産としていただく！素手なのであまり採れないけれど、それでもグレープフルーツぐらいの量は収穫。薄いけれど歯ごたえのよいワカメでした」とのこと。

2班（松田、松本明子） スタート：ふれあい広場→ゴール：道の駅ゆとりパークたまがわ 11.5Km

9:00 益田市街を通り抜けた海沿いの「ふれあい広場」から歩行開始。山陰本線、国道と時々クロスしながら、旧山陰道を海沿いに歩行する。戸田小浜には山陰のモンサンミッシェル??と噂される「衣毘須神社」がある。前日に泊まった多田温泉でおじさんが言っていた神社はここかもしれない（火野正平がチャリンコ旅で訪れて有名になったらしい）。

10:10 人形トンネルを避けて、二見から海岸線の旧道を歩行し、飯浦漁港に到着。

11:00 飯浦から国道を歩行し、田万川トンネルの直前で旧道に入り、県境の仏峠経由で田万川方面に下る。

12:00 道の駅ゆとりパークたまがわに到着、他のチームと合流。

島根県の海岸線を歩いていて、沖合に大きな島が常に見えていて気になったので、調べてみた。大きな島は高島（たかしま）であった。〔フリー百科事典「ウィキペディア」より抜粋、写真引用〕高島（たかしま）は、島根県益田市北部の沖（同市大浜漁港より）約12kmに浮かぶ島である。別名・七戸島。島根県益田市に属する。最盛期の1960年には125人の島民が暮らし、島内に益田市立鎌手小学校・益田市立鎌手中学校の分校があった。しかし、過疎化の進行に加え、1972年の集中豪雨災害などで大きな被害を受けたため、1975年3月に全住民が対岸の益田市土田町に集団移住して無人島となった。現在は磯釣りスポットとなっている。



高島
衣毘須（えびす）神社



県境の旧道（仏峠）近くのお地藏様



3班（篠崎、斎藤） スタート：ゆとりパークたまがわ→ゴール：JR須佐駅 8.5Km

8:40 道の駅ゆとりパークたまがわをスタート

9:10 江崎(山口県萩市)でいよいよ山口県に入った。国道は歩道が完備されており、歩くには格好である。

10:30 須佐駅(ゴール)に到着

11:15 迎いの車到着



須佐駅の整ったホームベンチ



今回の歩行ゴールJR須佐駅前にて

計画どおり歩行を終えて全員が揃い、山陰の小京都 津和野観光を行った。津和野では、昼食として名物「とろろおこわ」を食べて、太鼓谷稲成神社を参詣したあと、殿町通りを散策した。メンバーは大満足して各々帰路についた。

斎藤さん曰く、「レンタカーを活用し、坂本さんの知恵とエネルギーのおかげで欲張った「歩き」と「観光」が満喫できた」とのこと。

松本美和さん曰く、「歩行後は、津和野でお昼ご飯&散策。銀山に引き続き敏腕ツアーコン坂本さんのおかげで、美味しい昼食と的を絞った町巡り、試食にお土産と、めいっぱい津和野を楽しみました」とのこと。



津和野ビューポイント太鼓谷稲成神社から望む